

市 紀の國建設が報告

函 館 図書館ネーミングライツ

【函館】函館市は19日、市役所で市内図書館のネーミングライツ報告会を開いた。契約した紀の國建設（本社・函館）から紀國隆介社長ら4人が訪れ、大泉潤市長と懇談した。

市は中央図書館のほか千歳図書館、港図書館、湯川図書館、旭岡図書館の5カ所を一括したネーミングライツを募集。同社は共同体で中央図書館と千歳図書館を施工した

ロゴマークを手にする大泉市長（左）と紀國社長

縁があり、建設業界のイメージアップを狙って応募した。契約額は税抜きで年間180万円、期間は2030年3月31日までの4年間となる。

公共図書館であるため、各施設名の前に「紀の國建設みらい」の愛称を入れる。「みらい」という言葉には将来の函館を担う世代への期待と希望を込め、施設の公共性と親しみやすさを両立するよう意識した。

大泉市長は「図書館は多くの世代が集う大事な場所。ネーミングライツ



に賛同してくれてありがたい」と感謝した。紀國社長は「まちづくりで地域に貢献する建設業と、町の学びをつくる図書館。互いにまちの未来を築けたら」と述べた。